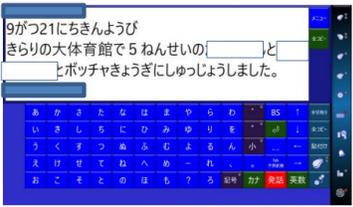


支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 視線入力装置を用いた手紙作成
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	ともだちに てがみをかこう
	授業の目標	(1)「いつ、どこで、何を、どうする」という項目について相手に伝えたいことを考え、教師と作文のメモを作成する。 (2)作成したメモをもとに、文章を作成する。
	学力の3要素	<input type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (2)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 ・利き手は右手で緊張や不随意運動がある。何事も全力で頑張るため、疲れやすい。 ・内言語は豊富であり、発語により自分の気持ちを伝えようとするが、不明瞭で伝わりにくい。 ・平仮名や片仮名、漢数字等を理解しているが、スムーズに書くことが難しい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援)
	使用した支援機器等教材の名称と画像	事前に担任と作成した、作文メモを参考に視線入力装置を使用して文字の入力作業を行う。    <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">ディスプレイ(上部)とTobii製 Eye Tracker 4C(下部)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">パソコンと液晶ディスプレイ用固定スタンド</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;">miyasuku EyeCon SW(意思伝達ソフトウェア)</div> </div>
授業展開	授業展開・支援の手立て	(学習活動) (主な支援) 1 本時の学習内容を知る。 1)視線入力装置で入力する文章を読む。 2)注意して入力する平仮名を確認する。 ・間違いやすい平仮名に注意して入力できるように、メモの平仮名にマーカーで目印を付けて注意を促す。
		2 視線入力装置で文章を入力する。 ・ディスプレイを注視できるように姿勢を直す。 ・文字の入力に集中させるため、文字入力の決定動作は機器操作支援の教師が行う。また、文字の入力を間違ってしまった場合、その場所を確認して消去する。 3 文章が正確に入力できたか確かめる。 ・最後までやり遂げるように見守り、適宜励ます。 ・ゆっくりと範読することで、文章が正確に入力出しているか気付けるようにする。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・視線が停留したり、可動域の狭さが確認されたが、徐々に視線を自由に動かすことができるようになった。 ・初めは装置が自分の思いどおりに動かなかったり、視線入力トレーニングソフトがクリアできなかつたりすると落ち込む様子が見られた。しかし、視線入力スキルが向上するに伴い、粘り強く取り組めるようになった。また、身近な人に自分の取組を見てもらいたい、認めてもらいたいという気持ちが芽生え、学習へ意欲的に取り組むようになってきた。 ・教師の作成したメモを見ながら視線入力装置を使って、平仮名を入力することに慣れ、時間内に手紙を作成することができた。 ・居住地校交流に出掛け、友達の前で視線入力の様子を披露した。緊張のため、普段無いような失敗をしてしまったが、発表をやり遂げた後は、満足そうな表情が見られた。 ・今後は更に効率的に文字入力できるように入力方法を検討し、手紙作成の時間を更に短縮できるようにする。 ・視線入力装置を身近な人とのコミュニケーションツールとして活用する可能性を探る。